

特集 「核」×市民×平和

3面 市民が創り出す、原発ゼロへの道

4面 2015年へカウントダウン!

The Young Women's Christian Association

YWCA

日本YWCAの使命(ミッション)  
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する  
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第31総会期主題  
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

日本YWCAビジョン2015

- (1) 非核・非暴力により平和を実現する
- ・平和憲法をまもり、世界に広める
- ・原発のない社会をつくる
- ・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
- (2) 女性と子どもの権利をまもる
- (3) 若い女性のリーダーシップを養成する

8

AUGUST 2014

No.721

www.ywca.or.jp



小渕真理

Mari Obuchi

NPO法人

アウシュヴィッツ平和博物館館長

福島YWCA会員

「原発災害  
4年目の夏」



活動の原点、平和博物館

アウシュヴィッツ平和博物館は、栃木県塩谷町から福島県白河市に活動拠点を移し、今年で12年目になります。展示内容はアウシュヴィッツ強制収容所の記録写真、没収された遺品、アソネ・フランクギャラリー、レスキューアースコーナー(ホロコーストの時代に目の前で助けを求めユダヤ人を救った市井の人々を紹介)、子どもの目に映った戦争(ポーランドの子どもた

ちが戦争の記憶を残した作文や絵)などです。そのほか恒例のイベントとして「平和の夏まつり」や、アウシュヴィッツの解放記念日にちなみ、すべての戦争犠牲者を悼む「アイス・キャンドル」などを開催してきました。

2011年に起きた東日本大震災と東京電力福島原発事故。震災と数日後に開館しましたが、来館者があるはずもなく、細々と運営を継続しました。ところが、敷地周辺の放射線量を計測したところ高い数値でホットスポットも多く、とても若い人たちに来てもらえる状況ではありませんでした。現在は屋外で平均0.4μS/hあります。この地に留まって活動するのか、どこかへ移転するのか、閉鎖をするしかないのかと考え込む日々が続きました。そして1年後の総会で決議したのが、館はアウシュヴィッツの残された記録を展示し「いのちの大切さ」や「平和の価値」を伝えてきたのだから、原発事故も同じように記録し伝えていく施設を残そう、ということでした。

最初、会員に建設の趣意について呼びかけ、寄付をお願いし、

さらに広範に募金のお願いをしました。そして1年後、「原発災害情報センター」をオープンしました。福島原発事故の検証はいつになるのかわかりませんが、それまではさまざまな展示をし、多目的ホールの開放も考えています。今年5月には、センター運営のための会の設立総会を開催し、全国から200余人の会員が参加しています。この間、講演会や学習会などが開催されています。市内のお母さんたちの集まり、コンサート、ぐち場、しゃべり場などとして交流の場にもしたいと思っています。完成はいつになるかわかりません。現在工事が進められている図書・サロン棟は、当館の理事長でもある塚田一敏大工のもと、4人の素人大工ボランティアが協力して進めています。9月には、完成予定のサロン内で「原発絵画展」が開催されます。80歳代の山形の女性画家さんの作品展です。

フクシマ・アクション・プロジェクト誕生

2012年12月、郡山市で原子力安全に関する福島閣僚会議が開催されました。主催は日本

国政府で共催は国際原子力機関（IAEA）です。この時福島県が原子力推進のIAEAと協力する覚書を交わすことを知りました。これは大変と、数人でフクシマ・アクション・プロジェクトを立ち上げて、早速抗議活動を始めました。東京にあるピースボートというNGOに手伝ってもらい、IAEA事務局長宛の「福島原発事故を過小評価せず、被災者の声に応えることを求める」要請書を直接、広報官に渡しました。回答は広報官の名前で返ってきました。もちろん「IAEAは原子力推進機関ではないこと、各国の要請に応じて協力をするのが目的です」というものでした。県の担当者から説明を受け交渉をしていく中で、もつとびっくりすることが判明するのです。それは2015年、三春町に「福島県環境創造センター」という名称の建物ができるということです。国が建設資金190億を出し、県が建設し運用します。本館（本部・事務棟）・研究棟・交流棟と3本の柱で構成されます。研究棟になるとIAEAが常駐する

のです。そのほか、日本原子力研究開発機構（JAEA）や国立環境研究所などの研究機関も入ります。これらは、ある意味原発を推進してきた機関です。さらに、交流棟は原発について学習する施設で、県内の小学高学年を対象に全員見学させ、放射線教育をすることが検討されています。映像や展示があり、楽しそうなパビリオン。展示企画からは、原発事故が起き、放射能汚染されても心配しなくても大丈夫、安心してください、という構想が見て取れます。県内の子どもたちに放射能安全教育をするつもりですか？と、再び抗議するも、その点については教育委員会に問い合わせしてほしいと、縦割りの弊害に直面しました。除染作業が済み、地鎮祭も行われている施設建設計画を前に、展示について議会でも議論してほしい旨、県議会議長あてに陳情書を提出したり、教育委員会にアポをとり説明を聞いたりと、次から次へと立ちはだかるハードルを越える日々。さらに今年6月7日には、「福島県環境創造センター交流棟展示

等検討会」が開催されました。これは来年1月まで計4回開かれますが、開催について県民への周知は十分と言えません。福島では、そんな日常が続きます。これからもずっと！

私は、東京電力福島原発事故前は、積極的に反原発運動に参加していませんでした。しかし、事故が起きてしまった今、福島（日本）はもう後戻りできません。私たちは前へ進むしかないのです。今を生きる大人の責任として、少しでも安心して暮らせるフクシマを次の世代に引き受けたいという気持ちがあります。

人類と核（原発）は共存できません。今こそ女性の番です。未来の子どもたちの為に、私たち一人ひとりができる小さなことを、手をつないで大きな力に変えていきましょう。社会を変えて地球の「いのち」を守っていきましょう。みなさまと一緒に。



NPO法人アウシュヴィッツ平和博物館  
<http://www.am-j.or.jp/>

## 相手への好奇心で、一步を踏み出す

渡邊 章太

いま、日本と近隣諸国の関係は日々悪化している。そして、悪化するにつれて、国家同士のぎくしゃくした関係は、それぞれの国の市民同士の関係にも波及しているように感じる。街中やインターネットでは、対立する国や人に対しての誹謗中傷の言葉をよく見かけるようになった。歴史認識の違いや国の利益の争いではなく、人間同士が傷つけあっている様は、見ていてとても心が痛む。

私は2012年に、日本YWCA日韓ユース・カンファレンス実行委員を務めた。企画途中、韓国YWCAからの提案で、企画の一部を急遽変更した事があった。当時、まだ一度も会ったことがなく、隣国とはいえ言葉もわからない人たちが、どのような考えや気持ちでいるのか、はつきりと理解することができず、開催に不安を感じていた。だが、カンファレンスが開催され、共に過ごしていくうちに、不安は消えていた。世間話から社会問題についてなどを話し合い、お互いの意見に耳を傾け理解し合える関係になれていたと思う。行ったことのない国の知らない人が、たった数日で仲間になれたのだ。

たとえ生まれた国が違ったとしても、お互いを認め合い、「仲間」になることができる。私たち市民が、相手を理解したいという気持ちや行動が、この国際状況を乗り切るための一歩になるのではないかと。また、それは日本にいる近隣諸国の人に対して差別を行っている人に対して、同じことがいえるのではないかと。よりよい未来に進むために、まずは相手のことを知りたい、という素朴な好奇心を持つことが、人間同士が傷つけあうこの状況を変える一歩になるのではないかと思う。

（2012年日韓ユース・カンファレンス実行委員）

## 市民が創り出す

## 原発ゼロへの道



2013年4月、市民による原子力に関するシンクタンクとして、「原子力市民委員会」が発足した。翌2014年4月には、『原発ゼロ社会への道—市民がつくる脱原子力政策大綱』（以下、「脱原子力政策大綱」）を発行。政府や地方自治体への政策提言のほか、メディアや司法関係者、企業へも情報提供している。原子力市民委員会委員で国際環境NGO FoEJapan理事の、満田夏花さんに質問した。（編集部）

z e r o

Q1:「原子力市民委員会」発足の経緯と目的、「脱原子力政策大綱」の編纂や自主的公聴会の開催など、政府の原子力政策へ市民活動からの提言をするようになった経緯についてお聞かせください。

3・11後、脱原発や福島原発事故被災者の支援を行う市民運動が誕生し、また、従来からの脱原発運動もかつてない盛り上がりを見せました。官邸前のデモに象徴されるように、脱原発を望む多様な声が結集したのです。2012年夏には、当時の民主党政権下で、エネルギーと環境に関する「国民的議論」が行われ、多数の国民が原発ゼロを望んでいることが明らかになりました。これを踏まえ、2030年代までに原発ゼロをめざすことが決定されました。

しかし残念ながら、自民党政権になってから、この決定はあっさり覆され、今に至るまで市民の声は無視され続けています。そのような中、高木仁三郎市民科学基金が中心となり、市民グループや自然科学・社会科学・人文科学にわたる幅広い科学者、技術者、弁護士などが何度も議論を繰り返して、2013年4月に設立されたのが、原子力市民委員会です。原子力市民委員会は、脱原発社会を構築するにあたっての課題を把握・分析し、政策をつくり、提言することをめざしています。とりわけ、次の4つの分野に力を入れ、検討を行っています。

- ① 東京電力福島第一原発事故の実情／被災地対策・被災者支援のあり方
- ② 使用済核燃料、核廃棄物の管理・処分について
- ③ 原発ゼロ社会構築への具体的な行程

④ 脱原発を前提とした原子力規制の在り方

上記のテーマごとに部会を設けて何度も議論を重ね、全国で意見交換会を開催しました。こうして2014年4月、「脱原子力政策大綱」が取りまとめられ、公表されました。

Q2:「脱原子力政策大綱」とはどんなものですか。また、今後どのように脱原発に関わる市民活動に活かされる可能性がありますか。

「脱原子力政策大綱」は、原発ゼロ社会を一日も早く建設するために必要であると考えられる公共政策の骨子について、できる限り包括的な全体像を示したものです。それと同時に、福島原発事故の被害の全貌を描写し、なぜ「脱原発が必要か」についても、客観的かつ説得力のある論拠を提供しています。200ページを超える膨大な文書になっており、全体として脱原発への道を指し示したものとなっておりますが、テーマごとにも独立しています。

## 序章 なぜ原発ゼロ社会を

## 目指すべきなのか

## 第1章 福島原発事故の被害の全貌と人間の復興

## 第2章 福島第一原発事故の実態と「後始末」をめぐる問題

## 第3章 放射性廃棄物の処理・処分

## 第4章 原発再稼働を容認できない技術的根拠

## 第5章 原発ゼロ社会への行程

## 終章 「原子力複合体」主導の

## 政策決定システムの欠陥と

## 民主的政策の実現への道

原子力市民委員会は、今後、各地で脱原

子力政策をめぐる意見交換の場に、この「脱原子力政策大綱」を討議資料として提供し、公論形成の過程に貢献していく予定です。とりわけ、原子力に依存しない地域社会を形成しようと努力を続けておられる各地域の住民や自治体、行政の方々とは、それぞれの地域で直面している具体的問題に即して、意見交換を続けていきたいと考えています。

Q3: 脱原発の道筋をつける上で、脱原発を目指す市民活動をつづけていらっしゃる満田さんご自身は、今、何が特に重要だとお考えですか。

私自身は、とりわけ福島原発事故の被災者支援に重点を置いて活動してきました。いまだに多くの人たちが、故郷を失い、あるいは避難したくても避難できずに、あるいは、帰還したくないのに帰還を強いられ、健康への不安を口にするこすらできずに苦しんでいます。放射性物質による被害そのものに加え、原発事故の被害をなかつたこととし、原発の再稼働を着々と進める政府、放射能や健康被害を恐れ、それを口にするこその問題というような風潮、「リスク・コミュニケーション」の名前で進められる新たな安全神話の押し付け、このことこそが被災者を苦しめているのです。エネルギー問題や原発再稼働をめぐる議論は必要です。それ以上に、現在の福島原発事故の被害全体に関する政策に関して、社会全体できちんと考えていく議論が求められていると思っています。

2015年10月、タイのバンコクで第28回世界YWCA総会が開催されます。世界YWCA総会は、世界120カ国以上で活動するYWCAの代表が一堂に会し、世界運動としてのYWCAの今後の方針やビジョンを打ち出す、4年に一度の機会です。いつもはそれぞれの場で女性や少女のエンパワメントのために力を尽くしている世界中の仲間が直接出会い、言葉や思いを交わして力づけ合える場でもあります。

2015年の世界総会のテーマは「変革をもたらず大胆なリーダーシップ」です。国連ミレニアム開発目標の目標期限、また、北京女性会議から20年の節目を迎える時期にあつて、女性、若い女性、少女が直面する課題は、いまだに解決されていません。現在、世界中で3人に1人の女性が一生の間に暴力やレイプの被害を受けているといわれており、また多くの少女が強制的な早婚・児童婚のために自分の人生を決める機会を奪われ、また命の危険にさらされています。この状況にあつて世界YWCAは、世界YWCAの設立目的である「平和、正義、人間の尊厳、自由、健康、環境保護にむけた共同行動のための女性と少女のリーダーシップ」の促進を改めて打ち出します。

## 2015年へ カウントダウン

世界YWCA総会 バンコクへ!



写真：世界YWCA総会、チューリッヒ(2011)より

さらに、今回の総会で、世界YWCA運動は、2035年までの20年のビジョンを見直します。それぞれの国、地域のYWCAが、女性や少女、そのコミュニティによりよい変化をもたらすためのビジョンを明確にし、世界YWCAの目標につながる行動計画をつくり、それぞれのYWCAがそれを主体的に実践するための方法を協議します。

日本YWCAは、このような世界YWCA全体の課題に呼応するとともに、日本全国でYWCAが取り組んでいる課題を世界に伝えようとしています。原子力発電も核兵器もない社会を実現するための決議案を韓国YWCAと共同提出し、ワークショップを開催します。

この決議案は、「原子力エネルギーと核兵器は、女性の安全、健康、尊厳を脅かす暴力性において密接につながっており、ともに否定されるべき」とし、女性がリーダー

シップを発揮できる、核のないコミュニティづくりを目指して活動することを呼びかけます。これは、日本YWCAが1970年より掲げてきた「『核』否定の思想に立つ」を、世界YWCA運動全体に呼びかけるものです。世界総会で採択されれば、今回の総会までの4年間にわたって世界YWCA全体の共通課題となり、世界中の姉妹YWCAとの協働のきっかけになります。現在、決議案の提出に必要な支持を得るために各国のYWCAとの連絡をとっており、打診してすぐに強い支持を寄せてくれたYWCAから、「原子力発電は必要なのでは？」という率直な疑問まで、この機会ならではの密接な意見交換を続けています。

世界総会では、核問題に加えて、軍事基地に関わる女性に対する暴力に関してワークショップを開催します。基地問題、特に沖縄の米軍基地問題に関しては、2013年に世界YWCA会長と会計役員が来日して意見交換をするなど、世界YWCA、米YWC Aとの協働への動きが進んでおり、今後、基地問題の解決にむけて、特に米



のYWCAのメンバーと連携を探る機会にしたいと考えています。

さらに、総会中に行われる世界YWCA運営委員選挙に、熊本YWCA推薦の吉村千恵さんを候補者として擁立します。世界YWCAの運営委員会に日本YWCAからのメンバーが加わることは、世界YWCA運動の中で「平和」の視点をさらに強めることにつながります。

日本YWCAは、この世界YWCA総会に、加盟YWCAとして代議員・オブザーバーを派遣します。世界総会に参加するメンバーは、日本のYWCAで活動する一人ひとりの代表として、日本から世界に声を届け、また、世界中で女性や少女のおかれた状況を変えるために活動するYWCAの仲間たちの声を持ち帰ります。

この夏から、いよいよ世界総会への派遣メンバーの準備が本格化し、派遣募金の呼びかけも始まります。ご支援、ご協力をどうぞよろしく願います。派遣メンバーと一緒に、この総会を盛り上げましょう!

### 世界YWCA総会 派遣募金 目標額200万円

日本YWCA代議員派遣のために用います。

郵便振替 00170-7-23723

加入者名 公益財団法人日本YWCA  
通信欄に「世界YWCA総会」、ご住所お名前を必ずご明記ください。



## 東京YWCA武蔵野センター 「福福カフェ」



それぞれの道を応援し、変わらずに「在る」安心の場を目指して

東日本大震災で、主に福島から東京都内に避難しているお母さんと子どもたちに、何かできることはないかという思いから、東京YWCAは東京都の助成を受けて、2011年6月から「福福カフェ」の準備を始めました。

住みなれた土地でも、出産・育児は戸惑うことだらけで大変なのに、見知らぬ土地に急に移り住むことになったママたちは、想像もつかないほど大変だろう。そんな彼女たちが安心してきてリラックスできる、普段話せないことも話せる、そんな場を創ろうということで、話し合いを重ねました。

まず、お茶をしながら話をする時間の前に、話せるきっかけをつくる、心をほぐすワークの時間を設けることになりました。

私自身、育児に行き詰まりそうになると、さまざまな親子向け講座や集いに参加していました。その頃からの繋がりを頼って、アロマや生け花、わらべうた、ヨガなどの講師ができる友人にナビゲーターをお願いし、私もクラフトを担当し、2011年8月末から月3回のペースで1年間続けました。東京都・武蔵野市民社会福祉協議会の協力を得、お知らせを都内の全避難世帯に配布できたこともあり、東は江戸川区、西



は昭島市から、5、6組の親子が訪ねて来てくれました。

最初は緊張でこわばった表情で入って来たママたちも、同じ思いを抱えた同郷の人たちと出会い、ワークで気分転換すると、色々な話をするようになり、時には涙を流しながら、半年間溜めていた思いを語ることもありました。

さらに、避難母子支援市民ボランティア研修講座を実施し、子どもたちのことは、講座を受講した学生、若いソパや先輩ママ、おばあちゃまと、多彩なメンバーが丁寧なみて、一緒に遊び、活動の担い手として支えてくださいました。子どもたちも思い切り甘えたり、体当たりしたり、気持ちを解放していたようです。

また、回を重ねるごとに、東京YWCA

武蔵野センターで活動する、他の人たちにも関心が広がりました。時間が合うと、手作りのお菓子やおにぎりを差し入れてくださったり、未就園児の子育て支援グループ「バンビーニの会」「みどり会」とは、活動やご飯を一緒にするなど、交流も広がりました。

日頃から、さまざまな世代志を持つ方々が集まっているYWCAだからこそ多様性と懐の深さは、貴重な環境を創っていると思います。

今夏で福福カフェも3年目に入ります。子どもたちはどんどん成長するのに、原発の問題は少しも良い方向に向かわない中、ママたちは福島に戻る、他県に移転する、東京に残るなど、それぞれの選択でさまざまな道を歩んでいます。

どんな道を歩んでも、福福カフェは変わらずに在る、という安心の場として、また、彼女たちの変化する心と大きなズレが生じない場づくりに気をつけながら、これからも続けて行きます。

東京YWCA 武蔵野センター  
國松佳子

種

隣人を自分のように  
愛しなさい。

(マタイによる福音書 22章39節)

今年もまた「終戦記念日」を覚える月が巡ってきました。8月の第一土曜日には、横浜の保土ヶ谷にある英連邦戦死者墓地で、戦没者追悼礼拝がもたれています。これは、戦後50年目の1995年に、日本人による初の追悼礼拝がこの墓地で行われて以来、毎年続けられています。墓地に埋葬されているのは、第二次世界大戦中に日本軍の捕虜となり、東南アジアの泰緬鉄道建設などでの過酷な労働に続き、日本の強制労働の末、命を落とした人たちです。礼拝では、彼らの死を覚え、和解と平和のための努力を続けていく責任を再確認します。

私たちは、第二次世界大戦中の日本の行為による、心の傷が癒えていない多くの人々の声を、誠意をもって聴かなければなりません。そこから、真の和解と平和のために、心の傷の癒しと赦しを祈らなければなりません。私たちは、隣人を愛し、共に生きるように命じられているからです。

半田ウイリアムズ郁子

日本基督教団武蔵野教会協力牧師

2014年度

## 加盟YWCA 中央委員会報告

5月24日・25日に、加盟YWCA中央委員会が、陪席22名を含む48名をもって開かれました。各委員会からの報告と協議結果を要約し、以下を報告いたします。

### さまざまな出会いが広がる 2014年度

2014年7月31日～8月2日、中高YWCA全国カンファレンスを開催する。全国の加盟中高YWCAから、200名あまりの参加者が一堂に会し、日頃の活動の情報交換から、リーダーシップトレーニング、さまざまな社会の課題に出会い、考えるフ



ルドワークに参加する。

続いて恒例の、ひろしまを考える旅（8月7日～9日）、日韓ユース・カンファレンス（8月16日～19日）を広島で実施し、今年も中国・韓国YWCAから、そして国内の留学生の参加者を多数迎える。

2014年度のしめは、YWCAフェスタ in 沖縄。2015年2月14日～16日の3日間、基地・教科書問題・文化芸能の3つのスタディツアーを準備。前回の長崎でのフェスタ（2011年）に参加できなかった方は、ぜひ沖縄で会いましょう！

### 活動の更なる充実と組織運営

次世代につなぐYWCAをめざして、2015年10月の世界YWCA総会も視野に入れながら、各部会・委員会の進捗状況の報告と事業計画が承認された。また、全国の各YWCAの組織規模および今後のあり方を踏まえた、加盟費算出基準見直し案、日本YWCA会長・副会長・書記・運営委員の候補者選考制度の見直し案が承認された。その他の報告・承認事項は次のとおり。

- ・青山学院高等部、西南女学院中学校高等学校の加盟。
- ・浦和YWCAの2014年度末をもっての解散。
- ・ユースの育成と地域YWCA活動推進の取り組み、中高YWCA全国カンファレンス実施。
- ・東日本大震災被災者支援事業「com7300」の取り組み。
- ・世界YWCA総会に向けた準備。

・全国幹事会、理事会、評議員会報告。  
・2013年度事業報告・決算および、2014年度事業計画・予算。

### 地域・全国・世界に 共感の輪を広げよう

日本YWCAが重点的に取り組んでいる、①憲法、②核、③基地、④ジェンダーの諸問題に関する担当チームの活動報告の後、全国の地域YWCAでの実践につなげるワークショップを実施。

- ①憲法：神戸YWCAが実施している、憲法に関する出前授業の実践報告を聞きながら、敬遠されることが多い政治の話を楽しく切り出す方法をディスカッション。
- ②核：核兵器と原発についてのプレゼンテーションの後、東日本大震災後の状況を体感するロールプレイを実施。それらを経て、各参加者が感じたことのかち合い。
- ③基地：全国紙・地方紙の見出しを見比べ



ることから見えてくる、報道の違いと情報を読み解く力をワークショップで確かめた。また、京都府に配備が進められている米軍Xバンドリーダー基地の問題を報告。

- ④ジェンダー：YWCAの活動を振り返り、YWCAが培ってきた女性のリーダーシップを活かした取り組みについて、意見交換。

### 活動の世界を広げて

2015年10月にタイで開催される世界YWCA総会に向けて、日韓のYWCAによる脱原発に関する共同決議案の提案と、核と基地に関する2つのワークショップを実施することの承認を得た。東日本大震災被災者支援「com7300」委員会が「YWCA活動スペース カロフくしま」で活動を推進している、女性のためのエンパワメント講座もスタート。活動の幅、世界が広がっていく一年です。

日本YWCA書記 藤谷佐斗子

もうダメ？ まだ間に合う！

## 女性がつくる「戦争しない国」

秘密保護法&集団的自衛権



2014年5月24日、弁護士の海渡雄一さんを講師に迎え、講演会を行いました。海渡さんは、日弁連の秘密保護法対策や、30年以上にわたって浜岡、もんじゅ、大間原発などの原子力訴訟を担当し、3・11後は福島原発告訴団、原発労働者訴訟などに関わってこられました。今回は、現在安倍政権下で着々と進められている「戦争ができる国家づくり」のシナリオ、特に秘密保護法と集団的自衛権の行使についてお話しさし、会場からの沢山の質問にも答えて下さいました。講演と質疑を抜粋してお届けします。(編集部)

### 立憲主義・民主主義を破壊しようとする今の流れ

日本国憲法は、マグナカルタ以来、世界が数世紀かかって歩んできた立憲主義と人権保障の歴史の到達点です。それを根本から覆そうとするのが、2012年4月に提案された自民党改憲草案です。その本質は二点。一つは立憲主義を否定し、国民主権から天皇の国へ転換を図るといふ復古的性格。二つ目は平和主義を放棄してアメリカの世界的な軍事戦略に日本を組み込み、戦争のできる国にすること。そのために、戦争や原発推進に反対する市民活動等から表現の自由を奪おうとしています。自民党の草案21条2項には、「公益公共の秩序を害する目的の表現の自由並びに

結社の自由は認められない」とありますが、表現の自由は人権の根幹に関わることで、市民が正確に事実を認識し、討論を重ねることができなければ、民主政治は機能しないのです。

### 集団的自衛権行使の容認とは

集団的自衛権の本質は、「売られてもいなければ買わないこと」。具体的には、攻撃を受けていない第三国が、直接攻撃を受けている他国を援助し、共同で武力攻撃に対処するということ。第三国が集団的自衛権を行使するには、国際法上、宣戦布告を行い中立国の地位を捨ててはいけません。つまり「アメリカのお手伝い」ではなく参戦することになります。歴代内閣は、集団的自衛権の行使は違憲だとして否定してきました。

世界における集団的自衛権の行使は、湾岸戦争やアメリカとNATOによるアフガニスタン攻撃など、大国による中小国への侵略戦争であり、日本はそうした戦争に参戦しようとしているのです。解釈改憲を許せば、「敵」国民を殺戮し、自国民も命を落とすような国

家につくり替えられます。その準備として、秘密保護法、解釈改憲による集団的自衛権行使の他に、現代版大本営作りと言える日本版NSC、共謀罪法案、盗聴法の対象の一挙拡大という刑事法案もあがっています。

### 秘密保護法の本質と廃止運動

2013年12月6日に成立した特定秘密保護法案には、根本的な欠陥があります。ツワネ原則(国家安全保障と情報への権利に関する国際原則)に照らして問題なのは、

政府の違法行為を秘密に指定してはならないことが明記されていない点、公務員だけでなくジャーナリスト、市民も処罰の対象とされる点、すべての情報にアクセスし秘密指定を解除できる、政府から独立した監視機関が存在しない点などです。原発についても、「安全保障上」「テロ対策上」の理由で特定秘密に指定されれば、これまで以上に市民の生命と安全に関わる情報を得ることができなくなるでしょう。市民をスパイ視する秘密保護法は、国民の相互不信と監視社会をもたらし、市民活動が社会から

抹殺されていく可能性があります。政府の違法行為を報道するジャーナリストは、職を賭すだけでなく、実刑の処罰で口を封じられる危惧さえあります。だからこそ、この法律は廃止しなければなりません。

**Q** 秘密保護法廃止のために、私たちにできることを教えてください。

**A** まず、廃止法案への賛同を増やすために、国会議員に働きかけましょう。廃止に賛成の議員は応援し、反対の議員には投票しない気持ちを伝える。また、廃止法案の署名活動を行う。それから、地方議会でも秘密保護法反対の決議をしていく。今は110ぐらいの自治体で決議されていますが、もっと増えれば大きな力となります。いずれにせよ、次の選挙まで安倍政権の暴挙を忘れず、廃止までの間も政府の暴走に警鐘を鳴らし続け、政権交代によって廃止を実現することです。

**Q** 危機にある日本の政治を変えていくのに、私たちに何ができるのでしょうか？

**A** 選挙の時に勝てるような枠組作りも大切ですし、秘密保護法廃止や脱原発など多くの市民の願いの結節点となっている課題について、小さなことでもいいから成果を出していくのも重要だと思います。僕は脱原発訴訟で一勝でもしたいという思いで一生懸命やってきましたが、一回でも勝つと、街頭デモに人が多く集まるし、諦めかけていたけれども一回やろうという声も沸き起こってきます。小さなことでも一人ひとりができることを積み重ねていけば、みんなを励まし続けることができるのではないのでしょうか。



エンパワーするNGO



映画『ハンナ・アーレント』



マルガレーテ・フォン・トロッタ監督 (ドイツ・ルクセンブルク・フランス/2012制作) 公式サイト http://www.cetera.co.jp/h\_arendt/theater.html

哲学者ハイデッガーの愛弟子として知られるアーレントだが、本作では、哲学者としての、また歴史の真実を追う思索者としての彼女の行動を、女性監督が丹念に追っている。1960年、南米に逃げていたユダヤ人大虐殺の責任者アイヒマンがイスラエルで裁判を受けることになった。亡命先のアメリカで大学教授をしていたアーレントは、著名誌に志願して裁判傍聴記事の任務を得て渡航する。戦中に収容所から辛くも脱出したアーレントは裁判を凝視する。裁判の様子は世界中に報道されたが、ナチスの極悪な首謀者を期待した人々の予測に反し、アイヒマンは「命令に従っただけだ」と淡々と答える能史のような凡庸な人間だった。彼の言葉からは何らの感情も想像力も窺えず、一つのシステムに適合した平凡さがあるだけだった。アーレントはこれを「悪の凡庸さ」と名付ける。映画では実際のアイヒマンの裁判報道フィルムを

使い、そのどこにでもいそうな人間像を彷彿とさせている。アジアの私たちには極東軍事裁判の中の人物が思い出される。

さらに、ナチスに諸悪の全てを担わせたいメディアや世論に反し、アーレントはもう一つの悪を明らかにする。当時のユダヤ人地域社会を率いて結果的にナチスに協力加担した同胞ユダヤ人指導者たちである。「しかたがなかった」ではなく、「抵抗と協力の中間で何かできたのではないか」と告発するのである。このことでアーレントはそれまでの友人を殆ど失い、命の危険すら覚える。それでも、大学の講義で「思考することは自分自身との静かな対話であり、善悪を区別し美醜を見分ける力だ」と学生を勇気づける。マンハッタンを見下ろすアパートから夜景を見る横顔、その孤独感に胸がしんとした。

編集部 (M.Y.)

おおま 大間原発を知って、考える ブルシェちゃんに行く スタディーツアー

2014年 10月12日(日)~13日(月・休)

【集合・解散】 函館市内

【対象・定員】

18歳以上、20名(先着順)

【参加費】

18,000円

(プログラム費・宿泊費・食費・現地交通費込)

【受付締切】

2014年9月4日

【問合せ・申込】

電話 03-3292-6121

メール office-japan@ywca.or.jp

ブルシェのツイート

https://twitter.com/YWCAchan

ご協力ありがとうございます

- 賛助費 安田寛子 磯貝聡子 望月和子 和田妙子 筑川光郎 益田明美 関口静子 吉岡郁子 花盛静子 鎌原恵子 宮内貞子 今井美令 斎藤孝子 山本鉄子 角田 健 荻井重人 伊藤 優 鈴木 榮 熊江雅子 田村セツ 原田由美子 桐山 澤 鶴崎祥子 高月三世子 渡辺寛子 渡辺文子 山本さなえ 大川孝子 中村紀子 石橋さなえ 土屋孝子 土居松枝 横山千枝子 桃井明男 藤野尚子 大工原則子 寺島順子 汐崎貞子 大澤恵美子 首藤和子 小村明子 田村三保子 小林多美 松岡信子 布村美弥子 松田和子 深田光代 平木貴美子 須部道子 星野花枝 鳥海百合子 石井寛治 石川松子 坪田未沙子 石川和子 折戸和子 谷川いつみ 川村悦子 本城智子 木田みな子 内海光代 難波郁江 大城美代子 江副恵子 甲子敏江 有賀三奈子 森 昂子 井出 都 佐々木真千子 大野綾子 三崎たつ子 柳美津保 (ピースメーカーズ募金) 平和を創り出す女性のリーダーシップ養成 角井桂子 宮内貞子 寺島順子 手島千景 小村明子 西 文子 中村紀子 天野文子 土居松枝 藤野尚子 濱田映子 ルーテル学院中学 高等学校生徒会 (国内外の災害被災者支援) 小村明子 庄子泰子 田村三保子 土居松枝 木田みな子 福島YWCA オリブの木キャンペーン募金 永井千鶴 斎藤孝子 田村三保子 小村明子 松本紗奈 木田みな子 上嶋貴之 大野綾子 重松よし子 佐々木宏治 Rechei smile Box 日本バプテスマ連盟篠崎キリスト教会 アウシユヴァイツ平和博物館 東日本大震災被災者支援募金 (チリボンキャンベン) 小林瑛子 熊江雅子 鶴崎祥子 本城智子 小村明子 大館香織 石井寛治 難波郁江 宮内貞子 中村紀子 坂本 渚 松田和子 川上静子 首藤和子 山本鉄子 西 文子 斎藤孝子 多喜百合子 相馬伸郎 汐崎貞子 木田みな子 藤野尚子 折戸和子 原田由美子 土居松枝 田村セツ 山本貴美子 首藤和子 高橋りえ子 田村三保子 学校法人捜真学院捜真女学校中部・高等学部 大阪女学院中学校・高等学校宗教部 DNRCエキユメニカル震災対策室JE 「風化を防ぐフォーラム」参加者有志 呉YWCAいちいちコンサート 公益財団法人神戸YWCA 加盟YWCA中央委員会日曜礼拝 加盟YWCA中央委員会有志 YWCA総幹事会有志 日本YWCA指導者養成寄付金 鶴崎祥子 (2014年4月16日~6月20日現在 敬称略)

発行所 公益財団法人日本YWCA 〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室 Tel. 03・3292・6121 Fax. 03・3292・6122 office-japan@ywca.or.jp www.ywca.or.jp

編集発行人 石井摩耶子 偶数月1日発行 定価1部 50円 年間購読料 660円(送料込) 振替 00170-7-23723

旬な情報 発信しています メールマガ登録 フェイスブック y-net@ywca.or.jp にお名前を送ってください www.facebook.com/YWCAJapan